

クラス分けについて

クラスのイメージ

選手のクラスって? 泳法の例外って?

選手には、それぞれ国際基準に基づいて競い合うクラスが与えられています。選手の障がいは様々で、肢体不自由や視覚障がいの場合、異なる障がいを持つ選手でも「同じ程度の障がい」ごとにクラスを分けて、競技を行います。知的障がいの選手、ろう者の選手は一つのクラスで競技を行います。

クラスを決めることを「クラス分け」と言います。知的障がいのクラス分けは、知的障がいかどうかを認定するテストに基づきます。パラリンピックや日本大会では、以下のように分類されています。

障がいの種類	クラス番号	障がいの程度
肢体不自由 切断・脊髄損傷 脳性まひ 等	1	↑ 重度 ↓ 軽度
	2	
	3	
	4	
	5	
	6	
	7	
	8	
	9	
	10	
視覚障がい	11	↑ 重度 ↓ 軽度
	12	
	13	
知的障がい	14	
聴覚障がい	15	日本独自の分類
その他	21	

※その他は、障害者手帳を所持しているが、パラ水泳対象外クラス。

クラスは泳法別に与えられます。

泳法	クラス種目表記
自由形	S(スイムの略)
背泳ぎ	
バタフライ	
平泳ぎ	SB(スイムプレストの略)
個人メドレー	SM(スイムメドレーの略)

これに加えて、選手にはルールの例外事項が与えられます。競技プログラムなどで、選手ごとにA、T、1・2・3・・・といった記号数字が記載されていますが、これは、健常者の水泳規則を基本とした場合の例外事項を表しています。

例えば、健常者の水泳規則では、介助者は認められていませんが、障がいによっては必要な場合があります。そういった時には「A(介助が必要)」という記号が与えられています。また、平泳ぎでのゴールタッチ等は両手で行わなければなりません。上肢の長さが頭の上に満たない競技者等は両手でタッチできませんので、数字の「7-上半身の一部でタッチしても良い」という数字が付与されています。泳法審判はこのコードを見て正しい泳法かどうかを判断します。

ルールの例外など詳細は・・・一般社団法人日本パラ水泳連盟のホームページをご覧ください。

(事例) 水泳波楽子選手が100m平泳ぎを泳ぐ場合次のように記載されています
水泳選手は両上肢欠損の障がいです

SB6

水泳波楽子

C

Y,A,E,7

平泳ぎの6という
クラスで競います。

クラスの確定度合いを表す。「C」は確定、
「R」はしかるべき時期に再テストなど

Y / 背泳ぎなどスタート時、紐などを口に
啜ってスタート。
A / 介助者をつけてもよい。
E / 背泳ぎのスタートでグリップを握れない。
7 / 平泳ぎ・バタフライのゴールタッチ
などは両手でなく上半身の一部で良い。